

新潟日報 2020年4月(改訂版 3月30日)

新型コロナウイルス：もっと危機感を

新型コロナウイルスは、ものすごい勢いで感染拡大を繰り返し、イタリア、スペイン、アメリカをはじめとする欧米全体に恐怖をもたらし、アジアやアフリカの衛生状態や医療体制の悪い中後進国に到達しようとしている。イタリアやスペインの惨状を見れば、インドやバングラデシュで同様の感染が広がればどれだけの死亡者が出るか想像するだけで恐ろしい。

私は、タイの大学で教えている関係で、ここバンコクで半ば足止めを強いられる結果になった。3月26日から4月30日までタイでは国家非常事態令が施行され、持ち帰りを除きすべてのレストランや娯楽施設が閉まり、デパートや商店は食料・生活必需品、薬品を除き閉店を強いられ、在宅勤務や居住地以外への移動制限措置がしかれている。

バンコクの自宅にこもりながら日本のテレビ番組やニュースを見る機会が増えたが、もどかしさを禁じ得ないことがいくつもある。中国人全体に対する日本への入国禁止決定の遅れや東京における感染者急増の発表。どちらも中国国家主席の訪日延期やオリンピック開催の延期が決定するまで政治的に操作されたのではないか、という猜疑心を国内外で生んでいる。そして気になるのは若者を中心とする新型コロナウイルスに対する警戒心の欠如だ。

イタリアやスペイン、ニューヨークなどの惨状を見ていけば、多くの訪日観光客などを含めて人々が密集する東京で爆発的な感染が起こらないのは、むしろ不思議なくらいなのだ。日本に限りそんな惨状にはならない、日本は違うのだ、という傲りや無知が取り返しのつかない惨事を招く恐れがある。世界の惨状や過去の教訓を冷静に理解し受け止めるべきだ。

以前にも紹介したが、スペイン風邪は1年余りの短期間に全世界で推計5000万人から1億人の死者(日本だけでも約2300万人の患者と約38万人の若者を中心とする死亡者)を出した。欧米を中心に感染力が高くても致死率の低い第1波が1918年3月に始まり、その年の10月ごろから始まった第2波は約10倍の破壊的な死亡率を伴い、健康な若者を中心とした死者が激増し、翌19年の初めに起こった第3波まで続いたといわれている。このようにウイルスは知らずに変異を繰り返し、感染力や致死力が強い性質に移行する危険性を常に保有している。新型コロナウイルスが長期にわたり流行の波を繰り返し、いつ変異してさらなる感染力と強い致死力を持ち、将来を担う若者たちの尊い命を奪わないという保証はない。今、一人一人がこの重大な危機を自分の問題として共有し、国益や私利私欲を捨て人の命を最優先し、他の人を思い、小さくとも自分が身近にできる役割を確実に果たし、みんなが団結して立ち向かう社会を創れるかどうか、われわれは試されている。